

## 作品解説

### 八重山のアンガマー

撮影 坂本要 編集・整音 春日聡 33分  
上映 2017/09/24 映像民俗の会・奄美大会

アンガマーは旧7月13日～15日のソーロン（精霊祭一盆）に新仏の家に現れ供養をし、踊りと掛け合いの問答で新仏を楽しませます。傘や仮面で顔を隠し素顔が分からないようにします。あの世から来たもので声は裏声を使い、祖霊ともされるが精霊ともとれます。アンガマーの語源については母や姉を指すとされます。他に家の萱上げや節祭にも踊られ、巻き踊りの事をアンガマーともいい、これは本土の女性の風流踊りに通ずるとも言われています。

#### [映像内容]

西表島・舟浮港 沖縄県西表島舟浮（ふなうき）港

#### I 盆アンガマー

- ① 西表島祖納公民館 旧7月13日 2003/8/10  
公民館からの出発 白襦袢・白掛裳（かかん）色物手拭の頭被り・五尺手拭の襷（たすき）座敷の踊り（士族）念仏歌（ニンブチー）親又御恩 地謡い 焼夷弾の薬莢で調子をとる  
掛け声ヒヤルガユィサーユィサー・フウフイフウフイ  
庭の踊り（平民） アンガマー 様々な仮面  
アンガマーは裏声（アンガママニ）でしゃべる  
ゴジンフ〈御前風〉繁盛節 最後にアンガマーも座敷にあがりカチャシーを踊る
- ② 竹富島 旧7月14日 2003/8/11  
アンガマーの入場 念仏歌（孝行念仏） 庭での輪踊り 奉納舞踊 仮想舞踊（ダイバー）
- ② 西表島・干立 旧7月13日 2003/8/10  
入場座敷と庭同じ踊り ウシュとンメーの掛け合いの踊り
- ③ 小浜島 旧7月15日 2002/8/24  
入場 ニンブチャニンズーの地謡が中に座る。これをアンガマー踊りともいう。  
アンガマー（女子）「めだかの学校」「鳩ポップ」「お母さん」  
ニンブチャの余興（うふたき荘）「お富さん」「勘太郎月夜」
- ④ 石垣市登野城 旧7月14日 2002/8/23  
入場—ウシュマイ（翁）とンメー（媼）翁と媼の仮面は道光24年（1844）に作られたという。  
アンガマー ウシュマイとンメーの子供  
珍問奇答 質問も裏声 電気で回る盆提灯 グショー（後生）—あの世⇔この世
- ⑤ 石垣市大浜 旧7月13日 2004/8/28  
アメリカユーのアンガマー アメリカ統治下に現れた顔白のアンガマー
- ⑥ 波照間島 旧7月15日 2004/8/30  
村長他村の役員がアンガマーになる。唄はグフダン（孝譜代—孝行念仏）仮面と仮装
- #### II シティ（節）アンガマー
- ⑦ 西表島祖納節祭（シティ） 旧10月30日 2003/11/23  
アンガマー行列の入場 フダチミ・アンガマー・音頭取り  
ザイ踊り ヨナハ節 ヤーラヨー

フダチミ女性で黒の被衣（カツギ）をクバ笠に被せて黒尽くめの衣装  
音頭取り一太鼓を持つ 黒ノスディナ 五尺手拭の頬被り  
アンガー 白襦袢にカカン・鉢巻  
アンガー巻き踊り  
フダチミ・音頭取りの中踊りとアンガーの踊りは逆に回る。  
五尺手拭・ググバ・キューヌフクラシャ（今日の誇らしさ）  
フナクイ（船漕ぎ）のあと男のアンガー踊りがある。アンガーとは巻き踊りを指す。

⑧ 鳩間島航路郵便船

2004/8/28

【制作経過】

本土の念仏踊り調査の延長として沖縄本島の島エイサーや八重山諸島のアンガマーを調査したもので、アンガマーの撮影は2002～2004年（平成14～16年）にかけて行っています。この後調査地を沖縄本島の中部・名護周辺に島エイサー・スーマチ（総巻・潮巻）を追っています。テーマは沖縄のサークルダンス（輪踊り）で、巻踊りの調査を進めています。大会のテーマが「来訪神」であったのでこの機会に撮り集めたものをまとめました。

【作品解説】

アンガマーは折口信夫が大正12年第二回の沖縄調査で石垣市登野城のアンガマーをみて深く感動し、「まれびと」という概念の生成に多大な影響を与えました。それは昭和4年の「国文学の発生（第三校）」にまとめられ折口学の根幹となり、アンガマーのことは「祖霊の群行」として書かれています。異郷（常世）から来るまれびと（客神）として扱っています。

アンガマーとは何を指すのか明確ではありません。登野城のようにウシュマイ（翁）とンメー（媪）が出てきて座敷で踊るのは土族のアンガマーで、他の島では異なります。西表祖納では座敷と庭では別に踊り、庭で踊るのは仮面や顔を隠す踊りでこれをアンガマーといっています。また竹富島では顔を隠し庭で踊る踊りをアンガマー踊りといいますが仮面はつけません。小浜島では入場の時の輪踊りアンガマーブトウキ（踊り）という一方、顔を隠して踊る女子のことをアンガマーともいいます。

アンガマーは実は盆だけでなく、新築の家の萱上げや屋移りに踊りもアンガマー踊りといい、普通の女性が踊ります。西表祖納の節祭にも出てくるアンガマーは黒づくめのフダチミという女性のあとにつく女性の踊りをアンガマーもしくはアンガーといっています。そのあとの男の輪踊りを男のアンガーといい、女性のアンガーで歌われる「五尺手拭」は本土で元禄時代頃に流行った風流踊り歌であるとされます（狩俣恵一『南島歌謡の研究』1999）。アンガーは語源からは母もしくは姉をさすとされ、これらのことからアンガマーは女性の風流踊りをさすとも考えられます。

【参考文献】坂本要「沖縄の念仏歌とチョンダラー -アンガマーと島エイサー-」『仏教経済研究』No.49 駒沢大学仏教経済研究所, 2020

【略歴】

1947年生。埼玉大学文化人類学卒業。東京教育大学大学院民俗学専攻。仏教民俗研究会主催。現筑波学院大学客員教授。映像活動 大学時 杉並シネクラブ、以降孝寿聡の博物館映像研究所・西荻座禅会とともに活動する。